

書評

Dan L Bader 編著 加倉井周一 監訳

褥創—予防・治療の実際と研究の展開

緒方 甫 (産業医科大学リハビリテーション医学教室)

褥創は、リハビリテーション医学の領域でも古くから脊髄損傷などに起因したものを中心に、発生機序や予防対策、さらに治療方法などが論議されてきたが、未だに発展した医療技術を駆使しても大きな課題を残しうる2次的障害である。

従来、褥創に関するまとめられた教科書的な著書は見当たらなかったが、Dan L Bader 博士の編集により、英国と米国の多くの専門家が参加し著したものが1990年に刊行されている。これをこの度、東京大学の加倉井周一教授らのご努力によって翻訳発刊された。

内容は多岐にわたり、褥創の臨床的側面から始まり、その対策、これに関わる科学、さらに患者のモニタリングシステムなどと、真に幅広く論述されている。これらは生物科学としての医科学的な側面のみならず、経済的側面や圧力監視装置などの技術的なテーマまでも扱っている。特に、褥創の予防対策ならびに圧の除去方法などの事項は新しい評価機

器などを駆使し解説を加えられているので興味深い。

本書は褥創の予防に直接携わるナースングスタッフや、これらの機器システムを処方する医師、さらに褥創の生物学的なコントロールに興味のある研究者らに多大な情報を提供してくるものと確信できる。本書は各種の障害を有し、常に褥創の発生などに留意して生活している障害者に多大な情報を提供し、社会復帰の質の向上にも益することは疑いない。来るべき21世紀に向けては、人類が未だ経験したことのない超高齢化時代を迎えるともいわれているので、幅広い分野の方々の本書の活用を望んで止まない。

また本書の巻末には、過去3年間のわが国の褥創に関する論文リストを訳者の方々が調査したものを掲載しているのも、読者の私たちに多大な情報を提供して下さっている。付記して厚く御礼申し上げる。
(B5判 240頁 4,944円(税込) 1994 協同医書出版社刊)